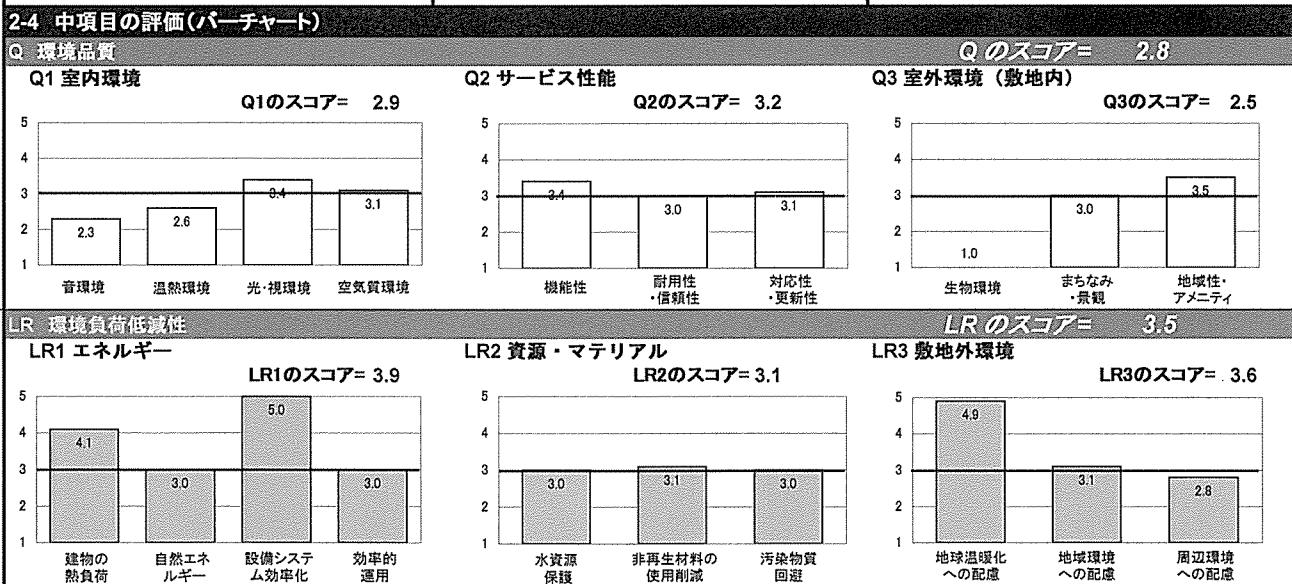
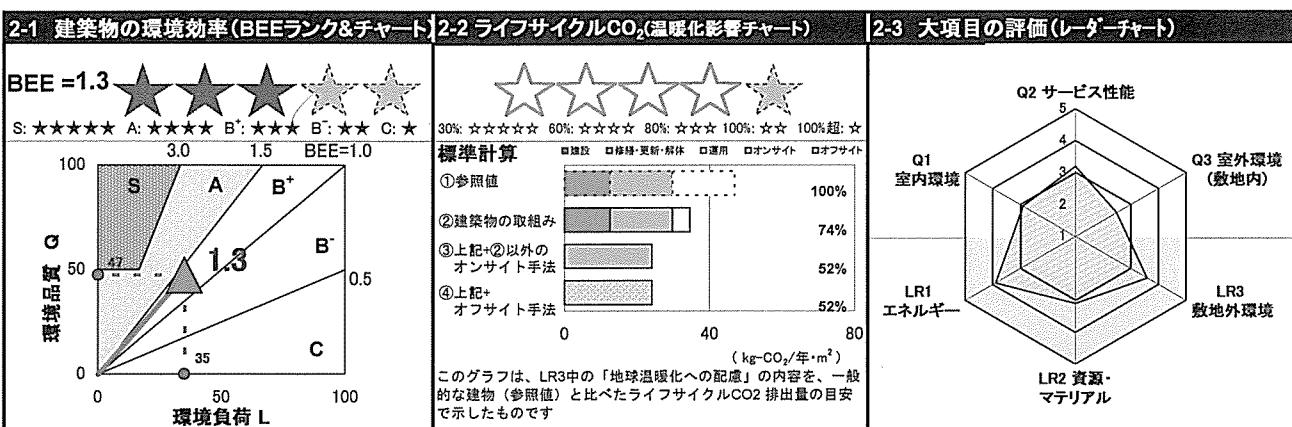


CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.8)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	精華中学校	階数	地上3F
建設地	京都府相楽郡精華町南福八幡丸山	構造	RC造
用途地域	住居地域、22条地域	平均居住人員	520 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年3月1日
敷地面積	18,659 m ²	作成者	木村 聰
建築面積	2,682 m ²	確認日	
延床面積	6,995 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他	
総合		既存敷地内で校舎を新設した後に既設校舎を撤去する計画とし、仮設校舎を設けない計画とした。	
公立中学校の校舎として標準的な水準を満足する計画とする。地域交流の拠点となる学校づくりを目指し、一部校舎開放が可能な計画とする。災害時の避難所として利用できる計画とする。建物の高さを抑え、かつ勾配屋根とし周囲の住宅、田園との調和を図る。また省エネ対策を取り入れる。建物のコアに光庭、水廻り、EVを集約した計画とする。			
Q1 室内環境		Q3 室外環境 (敷地内)	
公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。普通教室は全て南面に配置する。廊下、便所にも通風、採光を取り込む光庭を設置する。特別教室は騒音を考慮した配置計画とする。外壁、屋根面へ断熱材の設置、グレアを抑制する		公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。校舎側スペースは地域交流時、来客者の駐車場として利用、大型バスの乗入も可能な計画とする。有事の際、緊急時、メンテナンス時に校舎の周囲を車両が通過する計画とする。西	
LR1 エネルギー		LR3 敷地外環境	
公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。太陽光発電設備を設置する。		公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。透水性舗装を採用し雨水排水量の抑制をする。	
Q2 サービス性能		Q3 室外環境 (敷地内)	
公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。教室を集約し、授業の移動をコンパクトにまとめる。建築物移動等円滑化基準に基づいた計画とする。テラス、ホールを憩いのスペースとして設ける。空調機器の将来設置を見越し		公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。校舎側スペースは地域交流時、来客者の駐車場として利用、大型バスの乗入も可能な計画とする。有事の際、緊急時、メンテナンス時に校舎の周囲を車両が通過する計画とする。西	
LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境	
公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。マンホールトイレを設置しプールの貯留水を利用した計画とする。		公立中学校の標準的な水準を満足する計画とする。透水性舗装を採用し雨水排水量の抑制をする。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい